

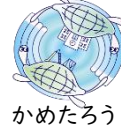
学校教育目標：「向学 自主 協働」

校訓：「夢を実現」



川通中だより

令和6年12月2日 第8号
さいたま市立川通中学校
TEL 048(799)1061
川中キャラクター ホームページ



～スローガン：「一生懸命はかっこいい」～

喫緊の課題

校長 鈴木 純

黄色や赤色に色づいた街路樹の葉が木枯らしを思わせる強い風に舞い散り、色鮮やかなじゅうたんのよう敷き詰められた並木道をサクサクと歩く音を聞くと冬の訪れを感じます。いよいよ師走です。

まずは、先月19日に本校で開催された「学校安全」研究発表会においては、保護者、地域の皆様のご支援をいただきながら、実りある研究発表会になったこと深く感謝申し上げます。当日は、参会者の皆様から、生徒の授業に臨む姿や2年間にわたる生徒のエージェンシーを育む研究の成果について、多くの方々からお褒めの言葉を頂戴いたしました。改めて、ここにお礼申し上げます。

さて、2024年10月31日のNHKのネットニュースでは、「不登校の小中学生 過去最多34万人余に11年連続で増加」と、取り上げられていました。文部科学省の調査では、不登校の状態にある小中学生は昨年度、34万人余りにのぼり、11年連続で増加して過去最多となりました。中でも、小学生が10年前の「5倍」、中学生は「2.2倍」に増加したとのこと。文部科学省のまとめでは、昨年度、全国の小中学校で30日以上欠席した不登校の状態にある子どもは、34万6482人で、前の年度と比べて4万7000人余り、率にして15%多く、11年連続で増加して過去最多となり、このうち、小学生が13万370人で10年前の5倍に、中学生が21万6112人で10年前の2.2倍に、それぞれ増えているとのことでした。高校生も3年連続で増加し6万8770人でした。

不登校児童生徒について把握した事実としては「学校生活に対してやる気が出ない」32.2%と最も多く、次に「不安・抑うつ」が23.1%、「生活リズムの不調」が23%などとなっています。

さかのぼれば2022年10月28日付の埼玉新聞の1面に、「小中の不登校24万人～コロナ影響、意欲低下」（文科省調査）と大きく報じられていました。この調査によると、文科省は、不登校急増の背景に新型コロナウイルスの影響がうかがえると分析しており、「運動会や遠足といった校外活動が制限され、登校意欲が下がったとの見方や休校による生活リズムの乱れが戻らない事例の報告もあった」と説明しています。この時よりも今年の報道では、10万人増えている計算になります。

さいたま市でも、不登校については喫緊の課題であり、様々な理由を持っている生徒たちに最善の方法で寄り添い、生徒や保護者の不安や悩みを取り除いて、安心して学校生活を送れるよう取り組んでいます。そして、本校でも担任や学年、教育相談主任、さわやか相談員やスクールカウンセラー等が、それぞれのケースに合わせてチームで対応していきます。心配なことがありましたら、どんなささいなことでも話しやすい人に話をしてみてください。敷居は高くありません。

また、本市では、不登校児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成して教育を実施する文部科学省指定の学校である「学びの多様化学校」も令和8年度に開校する予定です。詳しくは、さいたま市のホームページをご覧ください。